

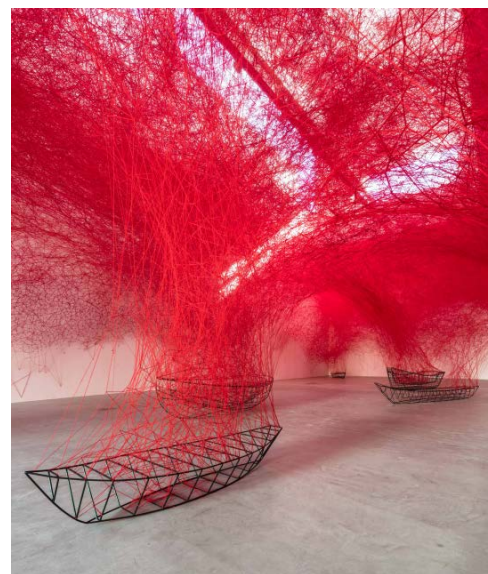
森美術館 2019年度企画展スケジュールのご案内

東京オリンピック・パラリンピックを翌年に控えた2019年度、森美術館は2つの企画展を開催します。「塩田千春展：魂がふるえる」は、国際的な活躍が目覚ましい日本人アーティスト、塩田千春の20年の活動の全容に迫る、キャリア最大規模の個展となります。続く「未来と芸術展(仮題)」は、科学技術の進展に伴い新たに生み出されるアートやデザイン、建築をとおして、近未来の人間像やライフスタイルを考察する展覧会です。どうぞご期待ください。

■ 2019年度企画展

塩田千春展：魂がふるえる

会期：2019年6月15日[土]－10月27日[日]



塩田千春
《不確かな旅》
2016年
鉄棒、赤毛糸
展示風景：「不確かな旅」ブレイク | サザン(ベルリン)2016年
撮影：Christian Glaeser

未来と芸術展(仮題)

会期：2019年11月19日[火]－2020年3月29日[日]



長谷川 愛
《((不)可能な子供：鬼ごっこ)》
2015年
デジタルプリント

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館広報事務局(共同ピーアール内)：津原、田ヶ谷、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

塩田千春展：魂がふるえる

会期：2019年6月15日[土]－10月27日[日]

会場：森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

主催：森美術館

企画：片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)

ベルリンを拠点にグローバルな活躍をする塩田千春は、記憶、不安、夢、沈黙など、かたちの無いものを表現したパフォーマンスやインスタレーションで知られています。しばしば個人的な体験を出発点にしながらも、その作品はアイデンティティ、境界、存在といった普遍的な概念を問うことで世界の幅広い人々を惹きつけてきました。なかでも黒や赤の糸を空間全体に張り巡らせた圧倒的なインスタレーションは、彼女の代表的なシリーズとなっています。

本展は、塩田千春の過去最大規模の個展です。副題の「魂がふるえる」には、言葉にならない感情によって震えている心の動きを、他者にも伝えたいという作家の思いが込められています。大規模なインスタレーション6点を中心に、立体作品、パフォーマンス映像、写真、ドローイング、舞台美術の関連資料などを加え、20年にわたる活動を網羅的に体験できる初めての機会になります。「不在のなかの存在感」を一貫して追究してきた塩田の集大成となる本展を通して、生きることの意味や人生の旅路、魂の機微を実感していただけることでしょう。



塩田千春 《静けさの中で》 2008年 焼けたピアノ、焼けた椅子、黒毛糸
展示風景：「存在様態」バスカートセンター(スイス、ビール/ビエンヌ)2008年
撮影：Sunhi Mang



塩田千春 《どこへ向かって》 2017年 白毛糸、ワイヤー、ロープ
展示風景：「どこへ向かって」ル・ボン・マルシェ(パリ)2017年
撮影：Gabriel de la Chapelle



撮影：Sunhi Mang

塩田千春

1972年、大阪府生まれ。1996年、京都精華大学(村岡三郎に師事)卒業後、渡独。ブラウンシュバイク美術大学(マリーナ・アブラモヴィッチに師事)等で学び、現在までベルリン在住。2007年、芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。南オーストラリア美術館(2018年)、ヨークシャー彫刻公園(2018年)、高知県立美術館(2013年)、丸亀猪熊源一郎現代美術館(2012年)、国立国際美術館(大阪、2008年)を含む世界各地での個展のほか、シドニー・ビエンナーレ(2016年)、キエフ国際現代美術ビエンナーレ(2012年)、横浜トリエンナーレ(2001年)など国際展参加も多数。2015年には第56回ベネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館代表。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館広報事務局(共同ピーアール内)：津原、田ヶ谷、村田

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

未来と芸術展（仮題）

会期：2019年11月19日[火]－2020年3月29日[日]

会場：森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

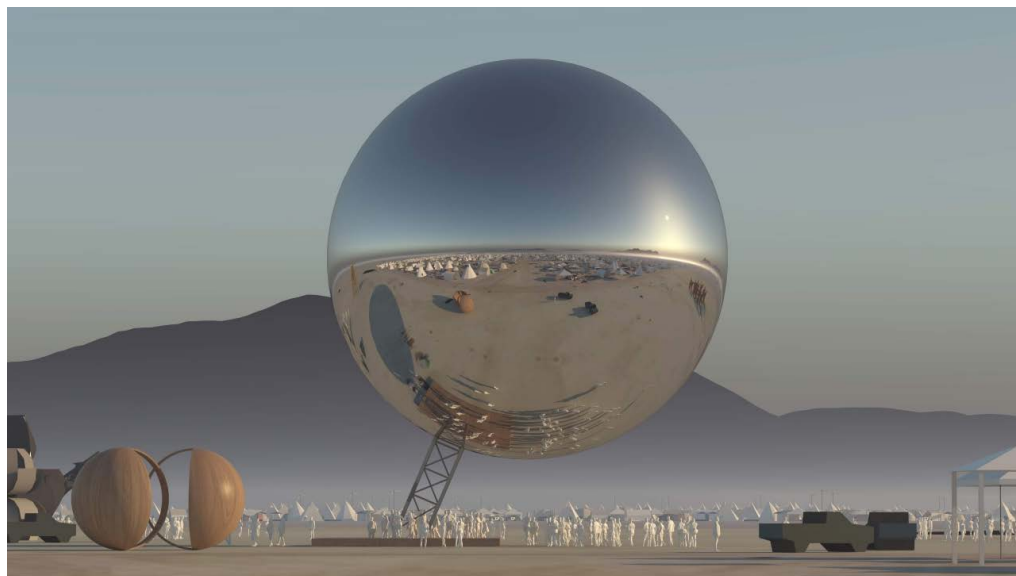
主催：森美術館

企画：南條史生(森美術館館長)、近藤健一(森美術館キュレーター)、徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

新しい科学技術の発達は、今、人間の生活のさまざまな側面に大きな影響を与えようとしています。近い将来、人間は多くの判断を人工知能に任せるようになり、シンギュラリティの到来とともに生活スタイルは大きく変わるかもしれません。ブロックチェーン技術も社会システムに新しい信用と価値を作り出すでしょう。さらに、多様なバイオ技術は、食や医学、そして環境に多大な影響を与えることになるでしょう。自分たちの身体機能を拡張させることができ、また、長寿を享受する時代がもうすぐやってくるかもしれません。

そうした変化は決して明るいものだけではないかもしれません。しかし我々は、少なくとも20－30年後の未来を思い描き、その新しい世界の可能性について考えることも必要なのではないのでしょうか。それは同時に、豊かさとは何か、人間とは何か、生命とは何かという根源的な問いにもつながるのです。

本展は、人工知能、バイオ技術、ロボット工学、AR（拡張現実）など最新の科学技術と、その影響を受けて生まれたアート、デザイン、建築を通して、近未来の人間像やライフスタイル、環境問題を考察する展覧会です。



ビャルケ・インゲルスとヤコブ・ランゲ
《球体》
2018年

広報画像は下記の画像申請フォームより申請願います。

<https://goo.gl/qecd4j>

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ヶ谷、村田

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル